

学力向上を図るための全体計画

墨田区立第三吾嬬小学校

1 授業改善の視点

国 語

- 1) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(主に、漢字の読み・書き)
 - 学習した漢字を字形に注意しながら、繰り返し書いて練習させる。定期的に確認テストを実施し、確実に習得させる。
 - 漢字のもつ意味を考えながら、文の中で書かせる指導を重ねる。(例 「対象」「対照」など、同音異義語の使い方などに注意させる)
 - 国語辞典、漢字辞典を意識して日常的に活用させる。
- 2) 「話す・聞く力」
 - 日常的に話す、聞く機会を設ける。(1 分間スピーチなど) スピーチの発表に向けて、原稿やメモを作らせ、それを元にパブリックスピーキングを意識して発表させる。
- 3) 「書く力」
 - 授業の開始 10 分で「ミニ作文」に取り組みさせる。作文は、条件をあたえ、めあてをもって書くようにさせる。(例 「3 文で書く」「好きな季節と、その理由」「2 段落で書く」)
 - メモをもとに書く練習を取り入れる。(例 箇条書き・常体文をみて、敬体の文に直して書く。)
 - 本や教科書の内容から、必要な情報を取り出して書かせる練習を行う。
- 4) 「読む力」
 - 説明文では、接続語や段落相互の関係に着目しながら読ませる。また、各段落の内容を要約するなど、どんなことが書かれているか確認しながら読み進める。
 - 初見の文章問題に慣れさせるため、補習や家庭学習の課題として文章題プリントを活用する。

算 数

習熟度別少人数指導を通して、個々の児童の課題に合わせた指導を行う。少人数担当が各学年の指導法、進行管理を行い、担任と指導計画をもとに全体の学習状況を分析しながら進める。

- 問題解決型の授業展開を心がける。
「問題把握」→「見通し」→「自力解決」→「全体検討」→「まとめ」→「振り返り」
- どの習熟度別グループにも問題解決の楽しさを感じさせる授業を行う。
- ブロック操作、テープ図、数直線等を活用し、問題場面をイメージする力を育む。
- 問題解決、全体検討の際には、国語で培った対話力を活用させる。
- 自分の考えを伝える活動、友達の考えを読み取ったり、解釈したりする活動を取り入れる。
- 理由と結果を明確にさせる。
- 日常の授業から、算数の用語を適切・正確に使うように注意させる。
- 思考の過程がわかるノート指導を行う。

社会

- 1) 問題解決学習の学習過程に沿った授業を実施し、社会科の「学び方」を指導していく。
「つかむ」→「調べる」→「交流」→「まとめる」
- 2) 用語や資料の読み取り方を学び、基礎的な学力は付いてきているが、活用の力に課題がある。
すでに学習した内容と類似した事例はあるのか、もっと他に調べてみたいといった発展学習までにつながっていない。例えば、都道府県の学習と、土地の利用が結びつかず、学習が分断されている児童も多い。

- 児童が興味をもって学習に取り組めるように、導入や資料提示の際に積極的に ICT 機器を活用する。
- 既習内容の定着を図るために、フラッシュカードの活用やワークテストのやり直し、繰り返しの小テストの実施などを行う。
- 教室に地図を掲示し、授業以外でも学習内容がつながるような声かけを行い、振り返りや発展学習につなげさせる。
- 人々の暮らしや土地利用などは、地図以外にも、ICT 機器を活用したり、遠くの人にインタビューしたりするなど、体験的な学習の機会を増やす。
- まとめの際に、いくつかの資料を基に学習した用語を用いて、自分の言葉で人にわかりやすく伝える活動を行い、学習の定着を図る。

理科

基礎の習熟に課題が見られる。特に、「生命・地球」の領域に課題が見られる。

学年	課題内容	領域	観点
4年	身近なしぜんのかんさつ 昆虫の育ち方	生命・地球	観察・実験の技能
5年	1年間の動物の様子 もののあたたまり方	物質・エネルギー	自然事象への関心・意欲・態度 (自然事象への知識・理解)
6年	顕微鏡の使い方 魚の誕生	生命・地球	観察・実験の技能

- 問題解決型の授業展開を意識する。
「自然事象との出会い」→「問題把握」→「予想・仮説」→「(計画) 観察・実験」→
「結果」→「考察」→「結論」→新たな自然事象との出会い
- 問題作りにつながる自然事象との出会いを設定する。
- 予想を立てる際に、根拠を明らかにさせる。
- 観察・実験で使用する器具や薬品名、正しい扱い方を徹底指導する。
- 考察において、理科的思考力の向上を図る。
- 効果的な ICT 機器の活用により、導入や観察の工夫を行う。
- 学習プリントによる、基礎的事項の習熟を図る。

2 授業以外の取組の視点

1) 家庭学習

- 基礎的事項の習熟を図るためのドリルや反復練習を意図的に宿題として出し取り組ませる。
- 東京ベーシックドリル、振り返りシートによる習熟度の確認と反復練習を計画的に進める。
- 自分で課題を設定し、自ら学ぼうとする態度を育てるため、自学自習に積極的に取り組ませる。
- 「家庭学習の手引き」を全家庭に配布し、家庭学習の仕方を指導し、家庭の協力を得て習慣化を図る。
- 模範的な自学自習（「トッピング学習」）の取組を他の児童にも紹介し、ほめながら学習意欲を高める。

2) 暗唱、コンテスト等

- 暗唱やコンテスト等の取組を通して、意欲的に学習に向かう姿勢を育てる。
- 合格者には賞状を授与し、積極的に児童をほめる機会を増やしていく。